

<b>第15回・第2期第6回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録</b>	
開催日時	平成28年12月14日(水) 18:30~20:30
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 地域自治に関する取組(案)について 3 その他 4 閉 会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、熊澤委員、古泉委員、古村委員、田中委員、中山委員、原田委員、檜垣委員、溝口委員、石谷委員、高松委員、加藤委員、立花委員、土屋委員
開催形態	公開(傍聴人4)

## 1 開会

第15回・第2期第6回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は16人、欠席者は3人であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は4人であることを報告した。

また、事務局より、10月15日(土)及び23日(日)に東西公民館で開催された「宝塚市協働の指針市民説明会」での講演の様子を字幕入りで編集した動画(本編)、準備段階から当日までの経過の様子を編集した動画(プロセス編)を作成中である旨、報告を行った。動画については、会議の場で視聴してもらい、イメージを掴んでもらった。

広く「協働」について知っていただくため、動画配信サイト「ユーチューブ」へアップしても良いかどうかの確認をとった。動画配信することについては、委員の許可を得た。

## 2 議事

### (1) 地域自治に関する取組(案)について

事務局から「宝塚市住民自治組織のあり方に関する報告書」を受けてまとめた市の地域自治に関する取組(案)について説明を行った。質疑応答及び久会長からの補足説明等があった。

ア まちづくり協議会に対して、どのように対応するのか。まちづくり協議会によっては、統一が取れていない所もある。調整はどこがするのか。

イ【会長意見】各まちづくり協議会で特徴が違うため、それぞれで地域と行政とのパートナーシップを深めていく必要がある。今までのように連合体と付き合いのとは違い、市がまちづくり協議会へ出向くと市職員の手間が増えるがそれが協働である。

ウ 役割分担の整理とはどういうことか。まちづくり協議会と自治会は、そもそもの成り立ちが違う。行政でまちづくり協議会と自治会のあり方を示せばわかりやすいのではないか。定義などあり方を決めておかなければ混乱するのではないか。

- エ【市】そもそも「まちづくり協議会が何か？」が知られていない。PRが足りなかったのは反省する。パンフレットなどを作成して、情報発信をしていきたい。現在、協働のまちづくり促進委員会が作成している「ガイドライン」の中でPRしていければと思う。
- オ 市民の中でどれだけ「まちづくり協議会」を意識しているのか。意識してもらうよう考えていかなければならない。
- カ【会長意見】役割分担の整理の仕方はそれぞれの地域でさまざまである。地域の担い手づくりについては、講習や講演会などを行い、学び合いの機会を設けてはどうか。また、楽しい所から、地域の関わりを持ってもらう。そして、やりたいことを行うグループを作ってもらい。楽しいことを通じて、たくさんの人を巻き込んでいくことが良いのではないか。
- キ “仕組みの構築”ということで、行政が主体的に支援し、ブログの作成をしていくということだが、財政的な支援はあるのか。
- ク【市】ブログの関係は、宝塚NPOセンターに委託している。ポータルサイトを立ち上げる準備を進めており、ブログの発信方法などノウハウを学んでいただく。
- ケ 「自治会が中核」この表現の意味は、混乱するのではないか。「パートナー」という表現が良いのでは。
- コ【市】当面「中核」は自治会で良いと考える。今後、発展すれば見直しを、と「報告書」の中でも答申があった。
- サ 「宝塚市協働のまちづくり促進委員会」との関係はどうしていくのか。
- シ【市】今後の取組（案）には、促進委員会の事は書いていないが、当然、連携ありきで考えており、もっと連携を進めていきたい。
- ス 「自治会連合会」への支援を「当面」行うとあるが、原則として、やめる方向で動いているのか。「当面」という言葉が一人歩きするのではないか。
- セ【市】事務支援は「当面」行う予定。行政情報の伝達や委員推薦などの手法を整理したうえで、事務支援の見直しを行っていく予定である。
- ソ 「まちづくり計画」の見直しについては、どのように考えているのか。
- タ【市】「まちづくり計画」が継承されていない理由の一つとして、「財政的な保障」をしなかったことが挙げられる。「財政的な保障」を行うためには、今後、条例で「まちづくり協議会」の根拠を定め、検討していく必要がある。
- チ 地域の担い手を発掘するための「100人委員会」や、「女性ボード」が以前あったがそのような政策は考えているのか。
- ツ【市】今のところ、具体案はない。しかし、第5次総合計画には、「市民自治の基盤となる地域自治の確立をめざします」と施策展開の方針を謳っている。
- テ 第5次総合計画は、32年度で終わってしまう。時間的に間に合うのか。
- ト【市】平成33年度から第6次総合計画が始まる。かなりタイトなスケジュールであるが、取り組んでいきたい。
- ナ【会長意見】池田市では、地域提案制度（地域でハード整備の予算をどう使うか考えて市が執行）を開始してから10年目を迎えている。予算決めだけのまちづくり協議会になってしまっている。宝塚市も仕組みづくりを検討しなければならない。
- ニ 今までの経験では、まちづくり計画作成時、市から一切意見が無かった。どんなも

のにするか、市と協働で作っていかなければならない。

ヌ 今後の取組（案）の２と３の間に、例えば、「行政だけで決めていくのではなく、市民と話し合いながら地域自治を推進していく」というような文章を入れて、市としての大きな方針（原則論）を入れてはどうか。

ネ 依頼型のものではなく、お互いが協働してやっていく。住民側の意識を変えないといけない。一緒に考える事が大事である。

ノ まちづくり協議会の会議に行政が出るのは良い事だが、地域団体の所にも行政が向いて欲しい。

### 3 その他

#### (1) 協働の仕組みづくり検討部会作業班からの進捗報告

作業班より、まちづくり協議会運営のためのガイドライン策定に向けて作業を行っている作業班の進捗状況報告が行われた。

### 4 閉会